

# 尊光寺報

第133号  
令和3年9月

徳島県阿波市市場  
町大野島字天神41  
尊光寺

## 一語法話

### 閃き

#### ときめき

#### お坊さん



ひらめきの人  
信映さん

ネコちゃんが好きですか？

ずいぶんと前の話になりますが、伺ったお仏間の座布団にはおネコ様が気持ちよさそうに鎮座されておりました。私が近づくと驚いたのかニヤンと鳴き声を上げてどこかへ隠れてしまいました。席をゆずってくれたと思いきやそこに座ると、ジワッとした温かさが下から伝わってきたのです。そうです。オシッコの後だったのです。それ以来、私はネコが嫌いで苦手でした。

昨年私はご縁あって結婚させて頂きました。妻はなんと大のネコ好き。突然に二匹のおネコ様とも同居が始まりました。始めこそシャーシャーと威嚇をされましたが、今となっては早朝にゴハンゴハンと私を起しに来てくれます。あれほど毛嫌いしていたネコが可愛くなってきてしまっている自分がいるのです。

様々なことが因となり縁となり、この私を育ててくれています。もの見え方も、立場が変われば、環境が変われば、ニヤンとも変わってゆくことをおネコ様は教えてくれました。決めつけをせず、先入観にとらわれず、固定的なものを見方をせず、柔らかなものの方を大切にしたいものです。多くのご縁によるお育てに気づき、「おかげさま」とよろこんで毎日歩んでいきたいですね。

(四州教区報に副住職寄稿)

## 正信偈講座 ⑳

(赤い経本一三六)

一切善悪凡夫人

聞信如来弘誓願

仏言広大勝解者

是人名分陀利華

【訓読】一切善悪の凡夫人、如来の弘誓願を聞信すれば、

仏、広大勝解のひととのたまへり。この人を分陀利華と名づく。

【現代語訳】善人も悪人も、どのような凡夫であっても、阿弥陀仏の「必ず救う我にまかせよ、我が名を称えよ」という本願を信じれば、

仏はこの人をすぐれた智慧を得たものであるとたえ、汚れない白い蓮の花のような人であるとおほめになる。

前回は、「一切善悪凡夫人 聞信如来弘誓願」の部分をお読みしました。どのような者にも、「必ず救う我にまかせよ」と阿弥陀如来の願いがはたらいており、その仏さまの願いをそのままに、慮ることなく、疑うことなく、そのままに聞かせていただく、それが浄土真宗の信心であります、お話ししました。

今回はそれに続く「仏言広大勝解者 是人名分陀利華」の部分です。

まず、「広大勝解者」とは、「広大な阿弥陀さまのお救いをよく領解した智慧の人」という意で、念仏の行者を誉め称えた言葉です。「お救いを領解する」とは、前回に申しましたように「必ず救う我にまかせよ」の仏さまの願いをそのままに、聞かせていただくことを言います。疑いなく、仏さまにおまかせする姿でありましょう。また、阿弥陀如来は、煩惱に沈みもがいてこの私を目当てとして、称えやすい「南無阿弥陀仏」を願い起こしてくださいました。私をめぐってはたらく「南無阿弥陀仏」が、私の口元で「南無阿弥陀仏」の念仏となり、私の心で信心となり、私に寄り添ってくださっているのです。

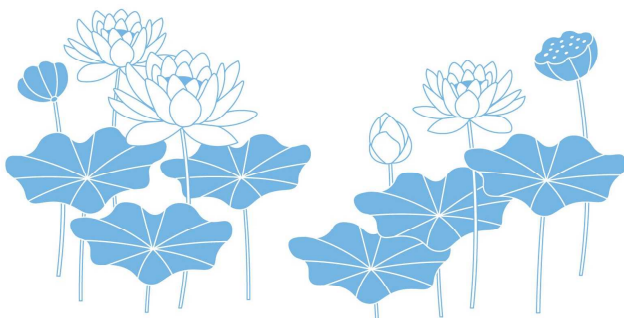
つづいて、「分陀利華」とは、インドの言葉「プンダリーカ」の音を漢字にあてたものです。プンダリーカとは白い蓮華を指し

ます。蓮には、青蓮華、黄蓮華、紅蓮華など様々な色があります。お経にも、お浄土には様々な色の蓮華が咲きほこり、それぞれに輝きを放っていると示されます。中でも、白蓮華は純白なその姿から最も高貴で汚れ無く、まさに華の中の王のようであるとインドでは讃えられます。

蓮の華は清流では育ちにくく黒い泥の中から芽を出します。泥の中でその養分を吸収し育ちながらもその泥に汚されることなく清らかな華を咲かせます。その蓮のありようは、煩惱の泥の中にありながら、阿弥陀如来のお慈悲に出会い、汚れのない仏のさとりを開いていく私たち凡夫の姿に譬えているのであります。

さて、私も蓮の種をもらい池に沈めていたことがあります。蓮を種から育てたことがある方は御存知のことでしょうが、水に沈めただけでは種は芽を出さないので、硬い種にある程度の傷をつけ芽が出る手助けをしてやる必要があるのです。また若い芽が出てきても全てが大きく成長するとは限りません。適度な泥、適度な養分、適度な光り、適度な温度と、大きく育つためには様々な条件が揃わないと上手くいかないのです。私のもらった種も十個の内、華が咲いたのはわずか三つだったので覚えておきます。

このように私たちも、煩惱の泥の中に沈んだままでは仏になるという華を咲かすことにはないでしょう。私たちに「仏としての華を咲かせてくれよ」と、阿弥陀如来は願いをかけ、どうか願いに気づいてくれよ、と私たちの固い殻を破り、適度な養分や光を与えようとしてくださっています。それが仏さまのお育てに会うということでしょう。オギャーと生まれたその時には、手を合わすことも知らなかったこの私たちが、様々なご縁によつて、いつの間にか手を合わす身となり、念仏を申す身となつていきます。そこには計り知ることのできない様々なおはたらきがあつてこそでありました。今私が手を合わす身となつていくそこに仏さまの願いを思わせていただきましょう。





# 庫裏の改築工事 途中報告

四月末より五月上旬にかけて庫裏の解体が行われました。一部再利用できる木材や焼物が有ったものの、虫が入ったり腐蝕があつたりと再利用に適していない部分が大半でありました。また、解体して分かつたこととして、木材の一部には、本堂に使用されるような彫り物を施したものが横木として使われていました。これはかつて本堂の梁として使用されていた木材を庫裏の木材として再利用したものの思われます。残念ながら今回の再利用には強度不足でありましたが、建築当時、お金の無いなかで、知恵を絞りながらなんとか庫裏を建てようとした先人達の思いを偲ばせていただきました。



六月からは地盤改良工事、七月には基礎工事が行われました。なるべく段差の少ない建物を目指して床を書院の高さに合わせておりますが、東西の地面高低差があり、基礎コンクリートをうまく施設するなどして解消に努めております。

工事中は書院を寺務所として使用しております。ご参拝の折には足元にご注意ください。

また、工事の状況により東側駐車場が使いにくい場合は本堂西側の駐車場をご利用ください。



# 法要・行事のご案内

コロナ対策のため、法要・行事の際はマスクするなど咳エチケットにご協力ください。また消毒液を置いてありますのでご利用いただき、手洗いをこまめに行いましょう。



## ◎秋の彼岸会永代経法要

真西に沈む夕陽の先に懐かしい方々が往かれた西方極楽浄土を思い、遺された私たちも同じお念仏に抱かれていることを味わわせていただきますよう。

【9月23日(木)】午後1時 法要・法話

【9月24日(金)】午後1時 法要・法話

※24日は仏教婦人会による特別養護老人ホームお接待を予定していましたが、新型コロナウイルス対策のためにお接待を行わないことに致します。恒例の会食を行わず、法要後のお茶とお菓子の振る舞いと致します。どなたさまもお参りください。

## 【法話講師】佐竹真城師(栃木県常圓寺)

副住職の友人であり、現在は本願寺派総合研究所研究員、中央仏教学院講師、龍谷大学講師などを務めていらつしやいます。かわいい五歳の愛娘(とうかちゃん)のパパで育児にも奮闘中。

尊光寺には2018年以來の二度目のご登場です。ワクチンも打ち終わり、親しみやすく丁寧なお話をしてくださいます。安心してお参りください。



## ◎報恩講法要

宗祖親鸞聖人を偲び、阿弥陀さまのお慈悲に出会わせていただく、浄土真宗門徒にとつて最も大切なお勤めです。

【12月18日(土)】

午後1時より法要・法話

午後6時より速夜法要・法話 御伝鈔拝読解説

【12月19日(日)】

午前10時より門徒総永代経法要・法話

午後1時より御満座法要・法話 御伝鈔拝読解説

【法話講師】川上順之師(広島県法泉寺)

【お当番】八幡組です。よろしくお願ひ致します。

(大野島・八幡・定松・伊月・山野上・切幡・古田)

# 副住職担当、徳島新聞カルチャー教室のご案内

各講座、受講生募集中です。

## ■仏教講座「御文章(ごぶんしよう)」

「聖人一流の」。浄土真宗中興の祖、蓮如上人が門信徒へ宛てた手紙が『御文章』です。宗祖、親鸞聖人の念仏の教えをやさしく説かれた『御文章』を、原文に沿って読み解き、仏教とは何か、念仏とは何か、一緒に学んでまいりましょう。

●毎月第3金曜日 10時～11時半 月額2500円(税別)

【教室申込先】徳島新聞カルチャーセンター徳島本校

徳島市川内町平石若宮92-4

TEL 088-665-8500

## ■親鸞聖人と『歎異抄(たんにしよう)』

「悪人こそが救われる!」『歎異抄』には昔から多くの人々の心をひきつけてやまない言葉がまつまっています。人間らしい矛盾を抱えながら生き抜かれた親鸞聖人の言葉を丁寧に読み解きあじわってまいりましょう。

●毎月第2月曜日 13時半～15時 月額2500円(税別)

【教室申込先】教室は、阿波おどり会館内へ申込は、徳島新聞カルチャーセンター徳島駅前校

徳島市寺島本町西1-5アミビル9階

TEL 088-611-3355



★徳島新聞カルチャーセンターは、徳島本校(川内)と徳島駅前校(アミビル9階)がひとつになり、10月より徳島駅前アミビル7階に移動し、新しく徳島本校としてスタートします。両講座も、10月からは新しい徳島本校で開講します。TEL088-611-3355

# 令和3年 年忌表

令和3年の法事と亡くなった年

1周忌	令和 2(2020)年
3回忌	平成31・令和元(2019)年
7回忌	平成27(2015)年
13回忌	平成21(2009)年
17回忌	平成17(2005)年
25回忌	平成 9(1997)年
33回忌	平成元・昭和64(1989)年
50回忌	昭和47(1972)年
61回忌	昭和36(1961)年
100回忌	大正11(1922)年
150回忌	明治 5(1872)年
200回忌	文政 5(1822)年
250回忌	明和 9・安永元(1772)年
300回忌	享保 7(1722)年

過去帳やお位牌をご覧ください。

秋の彼岸会永代経法要